

## (10)九州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)

### 前回調査からの主要変更点

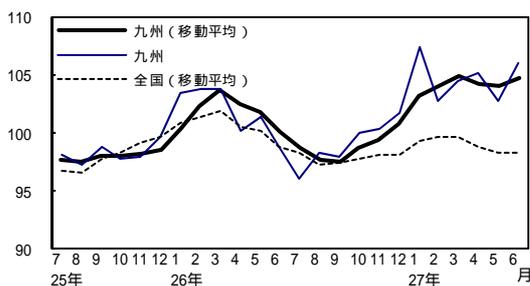
	前回(平成27年5月)	今回(平成27年8月)	
住宅建設	減少	大幅に増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4～6月期には、輸送機械は軽・小型乗用車や普通乗用車で、好調だった前期の反動が出たこともあり、減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けの半導体集積回路等が好調だったこともあり、増加した。はん用・生産用・業務用機械は、スマートフォン用途の半導体製造装置等が好調だったこともあり、増加した。化学・石油石炭製品は、工場の定期修理が終了したことでプラスチック製品向けのスチレンモノマーが生産増となり、増加となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	24.5	16.2	5.9	5.3	3.5	1.3
電子部品・デバイス	12.3	3.4	0.5	10.8	2.0	9.6
はん用・生産用・業務用機械	11.2	1.9	9.9	5.4	10.8	38.9
食料品	9.6	1.2	0.5	2.2	1.1	0.9
化学・石油石炭製品	8.3	8.1	6.8	2.1	4.4	3.3
鉱工業	100.0	4.2	0.3	0.8	2.4	3.2

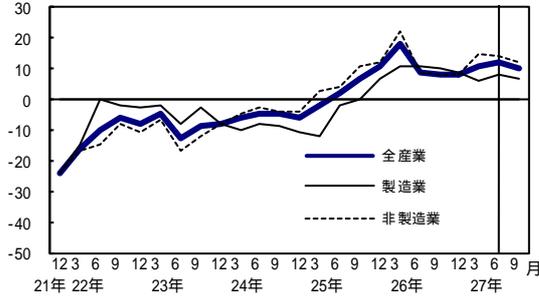
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。  
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4～6月期、6月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

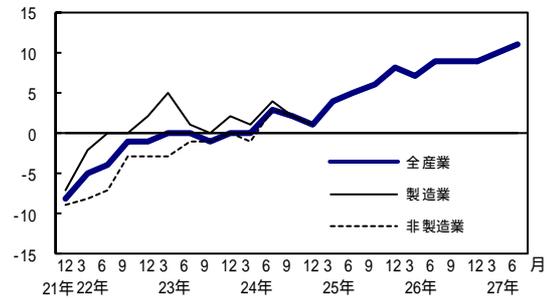
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



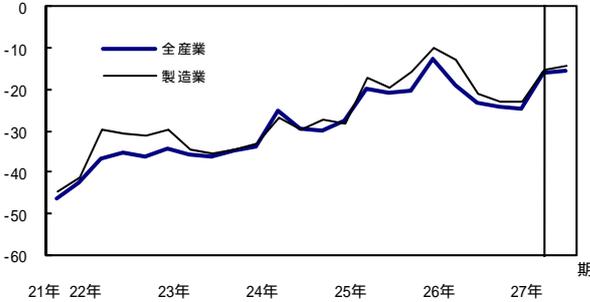
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



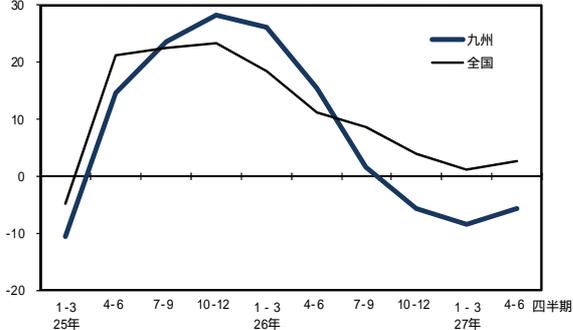
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「当地の主要産業である土木建設工事業の状況をみると非常に厳しい。公共工事を始め、民間工事の発注件数も例年に比べ少ない。材料の単価等も上がっている(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度見通
全産業	11.9( 3.9)	0.3(4.1)
製造業	12.8( 3.0)	11.7(2.3)
非製造業	11.1( 4.7)	10.5(6.1)

(備考) 1.( )は前回(3月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.5%減、5月は同0.7%減、6月は同0.7%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、前年の消費税率引上げ直後の買い控えの反動が大きく、前年を上回った。

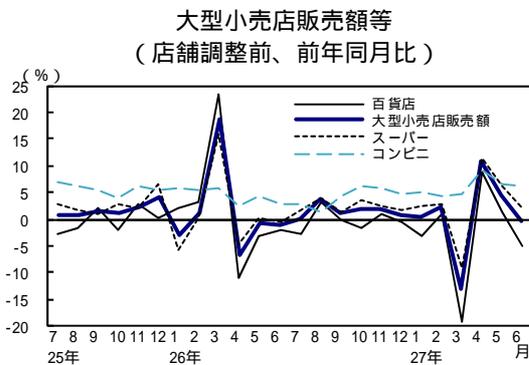
5月は、土日祝日の数が前年より2日多かったことに加え、化粧品、宝飾・貴金属の動きが良く、前年を上回った。6月は、前年同月と比べ日曜日が1日少ないことに加え、天候不順により気温の低い日が続いたこと等から衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。

スーパーは、主に飲食料品で青果、精肉、鮮魚、惣菜、酒類等の動きが良く、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、52.3となり前月より3.5ポイント上昇した。

「県内の施設が世界遺産登録をしたことで、観光客が今月半ばから増えており、その影響が当地にも及んでいる (タクシー運転手)」など、「やや良くなる」とする回答が増加した。



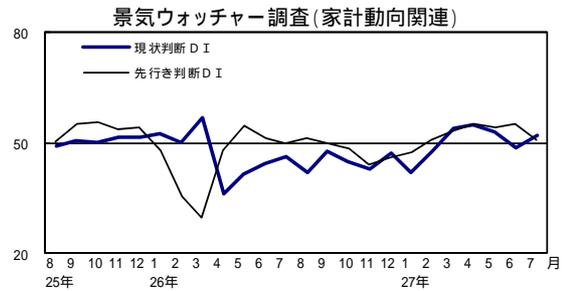
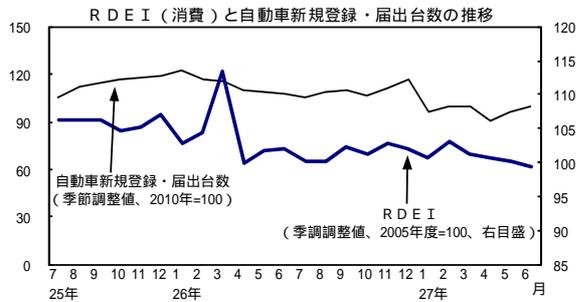
	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.6	0.5	0.7	0.7
大型小売店(*2)	4.9	10.8	4.7	0.3
百貨店(*2)	1.5	9.0	1.4	5.2
スーパー(*2)	6.6	11.6	6.3	2.2
コンビニ(*2)	7.3	9.1	6.6	6.3
乗用車(*3)	12.3	15.6	14.8	7.6
(季節調整値)(*3)	3.1	9.0	6.1	3.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比(%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

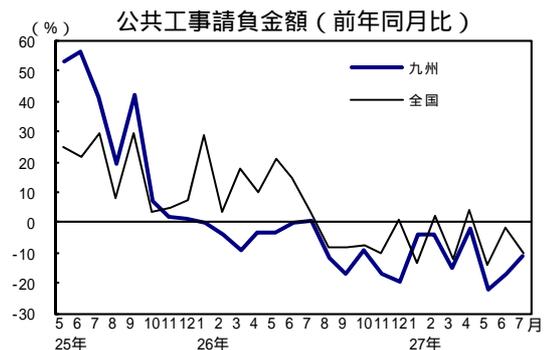
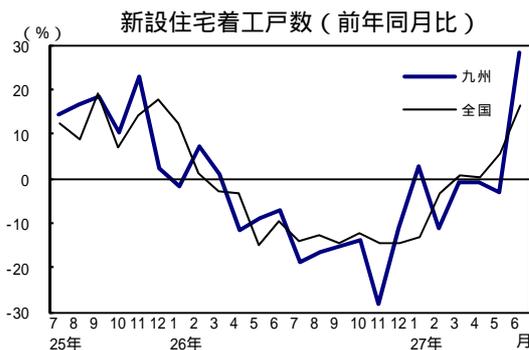
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

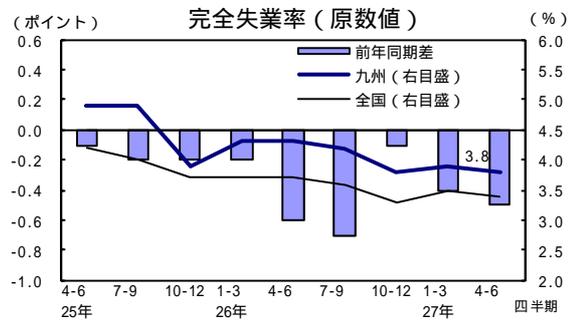
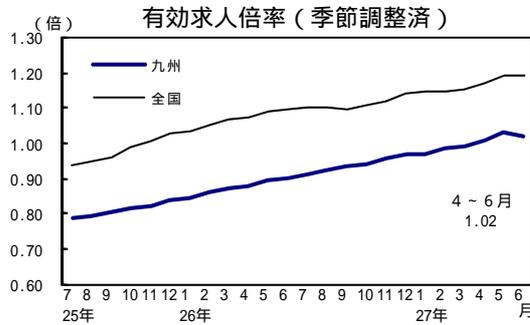


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

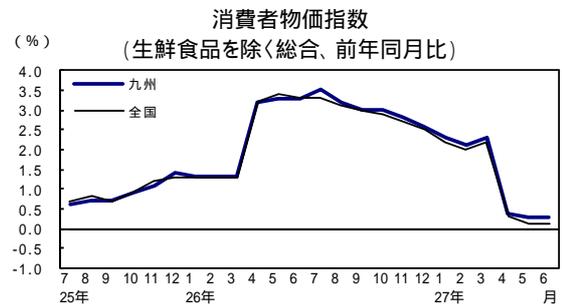
「福岡のホテルや流通関係者に聞くと、東アジアからの観光客の増加と共に、宿泊、買物の客足が伸びている。いわゆる「爆買い」のように、大量に土産物を購入する観光客も多い（新聞社 [求人広告]）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数	135	162	175	184	54
（前年比）	26.2	1.8	2.9	1.6	35.0
負債総額	184	376	246	257	72
（前年比）	27.3	36.6	23.5	23.4	62.2



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・前年に引き続き夏セールの上昇が少なかった。雨が多くて天気にも恵まれず、客足が伸びなかった。セール売上は前年割れの結果になった（衣料品専門店）

<先行き>

・フリー客の来店数が増えず、常連客の買上に頼っているところがあるが、常連客の客単価が下がってきている（衣料品専門店）

景気ウォッチャー調査  
（合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連）

